

単元の目標

- ・時制を適切に変化させることがわかる
- ・物語を書く時に「間接話法」と「直接話法」にわけて書けるようになる

❖ 話法とは？ P437

皆さんが「話法」という言葉を聞くのは初めてのことだと思いますので、まずは言葉の紹介から入ります。

「話法」という文法項目は簡単に言うと日本語の「」や“～と”の形を用いた引用になります。例えば、p437の例でいうと、

- ① 「あなたを愛してる」と彼は言いました。
- ② 私を愛していると彼は言いました。

のように「」の部分や“～と(私を愛していると)”の部分はどう英語に表すかということになります。日本語でもそうですが、「」を使うのは演劇の台本や小説、映画が主になりますので、皆さんがこの文法を学ぶ目的は“英語で娯楽を楽しめるようになる”ためとなります。

また p437 にもあるように「話法」には「直接話法」と「間接話法」があります。前者は「」を使う形、後者は「」を使わない形になります。上の例でいうと①が「直接話法」で②が「間接話法」です。「」がつく「直接話法」の方は演劇や映画などのように誰かが誰かの役になりきって言う話し方になりますので基本的には何も形を変えなくていいのですが、「間接話法」の方はあくまで1人の人間視点で発言を行うので少し文法的にイレギュラーが発生します。どちらを使ってもいいのですが、どちらも使えるように以下2つを区別しながら使い方を説明していきます。

★I：時制を変化させる

● 「直接話法」

上でも述べたように「直接話法」はなりきって演じるものなので時制もそのままでもいいです。上の①が直接話法になりますが、英訳すると

- ① He said, “I love you”.

となります。「言った」のは過去なので said、「愛してる」のは現在なので loved ではなく love という何ら変わりがない当たり前の時制をとります。

● 「間接話法」

対して「間接話法」は以下のようになります。②を英訳します。

- ② He said he loved me

「言った」のは過去なので said となることは①と変わりませんが、問題は love も過去形になるということです。これは「間接話法」が一人の人間の視点で発言を行うことを示しているのです(ここではあくまで彼が自分自身の

視点ですべてを語っている)、時制も話者(ここでは彼)の動詞に合わせます。いわゆる「時制の一致」という言葉で塾なんかでは習うと思います。「間接話法」の場合、以下のように2つの動作の時制がずれている場合がやっかいです。

例) 私を愛していたと彼は言った。 (「愛していた」の方が「言った」よりも過去なので時制がずれている)

英訳: He said he had loved me

上記のように「2つの動作の時制がずれている場合」は、より昔の動作の方を過去完了にします。助動詞や仮定法の単元でやった内容と同様に「ずれている場合は一つ昔の形にする」ということです。表にすると以下のようになります。

	直接話法(that以下の動詞の時制)	間接話法(that以下の動詞の時制)
彼は散歩すると言う	現在形 He says "I walk ".	現在形 He says he walks .
彼は散歩すると言った	現在形 He said "I walk ".	過去形 He said that he walked .
彼は散歩したばかりだと言った。	現在完了形 He said "I have walked ".	過去完了形 He said that he had walked .
彼は散歩したと言った。	過去形 He said "I walked ".	過去完了形 He said that he had walked .

★2: 「直接話法」→「間接話法」への変換の仕方

★1の考え方がわかれば次は「直接話法」→「間接話法」への変換を学びます。ただしこれは機械的に手順にそってやるだけなので Ultimate p439-446を一読するくらいで大丈夫です。一昔前は受験英語であった「直接話法を間接話法に書き換えなさい」という問題も今はないですし、この技術が必要になってくるのは英語で小説をかいたり脚本を書いたりする段階になりますので今はそこまで必要ありません。

本日は短めです。残り3時間分ありますので、ひとまずこれまでの4時間分を復習しておいてください。

「今後の予定」

- 5時限目: 接続詞 P4 4 8 ~ 4 8 7
- 6時限目: 疑問詞 P5 4 8 ~ 5 5 1
- 7時限目: 代名詞 P6 0 2 ~ 6 3 7